

広島大学 グローバルインターンシッププログラム
NEWSLETTER

海外インターンシッププログラム(G.ecboプログラム)
 —10年後の自分を探そう 世界と出会うインターンシップ—

第13号 Vol.6 No.1

2014年2月

目次:

インド・ミャンマーへ	1
修了生の就活特集 (商社・エネルギー・公務員)	2-3
2013年夏 派遣報告	3
ヒヤリ・ハット -途上国でのリスク管理-	4

G.ecbo初！インド、ミャンマーへ

To India and Myanmar



国際協力研究科博士課程前期教育文化専攻 井出 翔太郎さん

“インドを経験して、物事を多面的に見ようとする態度を養うことができた”

近年、タミル・ナードゥ州では、英語を教授語とする学校(EMS)の数が急速に増えています。そのような背景で、どのような子ども達がEMSに来ているのか、社会経済的観点から明らかにするべく現地へ赴きました。

初めの印象は、「汚い・うるさい・辛い」と最悪でしたが、人々は魅力的で、そんな嫌気を吹き飛ばしてくれました。しかし、当然いい人ばかりでもなく、特に破格の運賃を請求してくるオートドライバーに対しては不満を抱くことも多かったですが、調査中に「僕のお父さんはオートドライバー」と話す子ども達を目の当たりにしたとき、「彼らも子どもを養うために必死なのかもしれない」と、不満とは違う思いを抱くようになりました。



国際協力研究科博士課程前期開発科学専攻 佐々木 克祥さん

“アジアのラストフロンティアで自分の研究分野である都市・交通計画に関わる活動をしたい”

私がインターンシップに参加した目的は、海外で活躍している会社で活動することで将来の職業選択の視野を広げたいと考えたからです。

実際に現地で活動してみると、ミャンマーでは日本を含め多くの外国の企業が参入して都市開発が行われており、あと数年ほど経てば劇的に都市が変わるだろうという印象でした。ヤンゴン市内は治安も良く、寺院や湖など市民の憩いの場などもあってすごく過ごしやすい環境だと思います。ホテルの料金が高騰しているのが少しネックですが、ぜひ来年以降もミャンマーへ行くことをお勧めします。



2014年度G.ecbo海外インターンシップの募集は4月から開始します！派遣先等の詳細はHPをご覧ください。

G.ecbo will call for 2014 participation in April! Go to our website for the list of intern locations and further details.



裏面へ！



G.ecbo海外インターンシッププログラムとは？

グローバルインターンシップを核としたサンドウィッチ教育を通して、既存の学問領域に縛られない多様な分野の課題に適應できる研究者の輩出、国際協力・国際援助の第一線をリードする実務者の養成と、世界中から集まる留学生や研修生の高度専門職業人としての育成を目指します。

G.ecbo修了生の就活特

修了生の皆さん、内定おめでとうございます！この春、就職するG.ecbo修了生3名を紹介します。



大木 健司さん
2014年 国際協力研究科博士課程前期開発科学専攻 修了予定
三井物産株式会社 内定

Memories of G.ecbo

2012年 AEPCネパール環境局(ネパール)

ー参加した目的は？

海外の省庁でのインターンシップに強い魅力を感じたから。

ー印象に残っている出来事は？

日本人だという理由だけで感謝されたこと、更なる支援を頼まれること。12時間の登山。野生の虎に怯えながら寝た夜。iPhoneの月額使用料が4万円をこえたこと。



Present

ーこの企業・業界を選んだ理由は？

自身の就職活動の軸に沿っていると感じたから。具体的に軸とは、①日本人として世界に貢献する、②自身の経験や研究に関連し、将来的には水事業に携わりたいの2つです。

ー就活にG.ecboの経験は役立ちましたか？

AEPCでは日本人が1人という環境下で、職場での信頼関係を構築する必要がありました。その際、どのように考え、どのような行動をしたのか、またその経験から何を学んだのかというエピソードを就職活動中にも話しました。

Advice: 国籍、年齢、宗教の異なる環境下で如何に自身の目標を成し遂げるか、その試行錯誤が今後の人生の大きな糧になると思います。是非G.ecboに挑戦してみてください！



下山 知久さん
2014年 国際協力研究科博士課程前期開発科学専攻 修了予定
出光興産株式会社 内定

Memories of G.ecbo

2012年 West Java Environmental Protection Agency (バンドン、インドネシア)

ー参加した目的は？

途上国が抱えている問題や国際協力に関わる事例に強い興味を持っており、培ってきた専門知識を活かして国際協力に関わる活動ができる受入れ機関が存在したためです。

ー印象に残っている出来事は？

ホスト機関は、音楽が流れ笑い声が絶えない職場でした。その中で成果を出して発表している姿を見て、いつの間に！？じえいえ！？と、いつも思っていました。

Present

ーこの企業・業界を選んだ理由は？

この業界を選んだ理由は、石油ほど汎用性が高く社会に高い影響力を持ったものがないと感じたためです。出光興産は、「和の精神・互譲互助の精神をもって世のため人のため」を貫いている会社なので選びました。

ー今後の目標

1日も早く、技術者として独り立ちできるようにすることです。



Advice: 無理だと思わず自分のやりたいことをやってみれば、結構上手いくもんだと思います。就活でも残りの大学生活でも、周りからの批判や評判に惑わされず、自分がやりたいようにやってみてください。



上原 亜由美さん
2014年 国際協力研究科博士課程前期開発科学専攻 修了予定
沖縄県 内定



Memories of G.ecbo

2012年 (株)アルメック(ハノイ、ベトナム)

ー参加した目的は？

私が海外インターンシップに参加した理由は、単純に海外で働くことに興味があったからです。実際に体験して感じたのは、英語が得意な文系学生は飽和状態であることでした。英語はできて当たり前であり、できないのであればそこには専門の通訳が入るだけです。真に大切なことは、何を伝えるのか、相手の求めているもの(知識や技術)を自分が提供できるのか、どれだけ寄り添えるかでした。



Present

ーこの企業・業界を選んだ理由は？

私は、地元の公務員として働く決意をしました。海外で働いたとしても、国内で働いたとしても、社会への貢献度はほとんど同じだと感じたために出した結論です。違いがあるとすれば、それは直接的に誰のために働くかであると思います。

ー今後の目標

地元を離れて進学し、海外でインターンシップを経験させていただき、故郷の良さや問題点を再認識しました。今後は、大好きな故郷のポテンシャルを生かしながら世界へアピールしていきたいです。

Advice: 理系の学生さんに、ぜひ海外へ目を向けてほしいと思います。研究者として、技術者として、どれだけ良いものを持っているかを自覚できれば、語学に対する苦手意識も気にならなくなり、勉強のモチベーションも上がるのではないのでしょうか。

2013年夏、16名を海外へ派遣しました！

派遣先

○高等教育機関：
フロリダ州立大学(アメリカ)、プライジャヤ大学(インドネシア)、
ロシア科学アカデミー ウラル支所(ロシア)、マドラスクリスチャンカレッジ(インド)

○国際協力機関：
JICA(インドネシア)、国際非営利法人ICLEI ICLEI-Local Governments for Sustainability Southeast Asia(フィリピン)、FORWARD (Forum for Rural Welfare and Agricultural Reform for Development) (ネパール)

○民間企業他：
グラミン銀行(バングラデシュ)、株式会社パデコ JICA理数科教育強化プロジェクト(バングラデシュ)、復建調査設計株式会社 ヤンゴン事務所(ミャンマー)、株式会社アルメック(ベトナム・フィリピン)、ネパール環境局 (ネパール)、ベトナム建築都市農村研究所(ベトナム)



学生の所属

国際協力研究科開発科学専攻(8名)、国際協力研究科教育文化専攻(6名)、
理学研究科地球惑星システム専攻(1名)、工学研究科社会基盤環境工学専攻(1名)



派遣学生の声

工学研究科博士課程前期社会基盤環境工学専攻 神澤 拓さん
2013/8/13～9/15, 株式会社ALMEC VPI(フィリピン共和国)でインターン

私は現地の交通に焦点をあてて、課題の発見・調査・分析・提案、といった一連の研究過程を経験しました。充実した事前研修に加えて、帰国後にケーススタディ研修に取り組むなど、1年間を通してG.ecboを楽しんでいます！

G.ecboヒヤリ・ハット…!

途上国への渡航は、いつも危険と隣り合わせです。天災に人災に状況は様々ですが、適切なリスク管理ができるよう、万全の準備をしてインターンシップに臨みましょう。



CASE 1 洪水(フィリピン)

フィリピン特有の雷雨に見舞われたある日、いつも利用していたバスが運休となり、私は「仕事に遅れてはならない」と必死でした。タクシーを乗り継いでなんとか会社にたどり着くと、「こんな大雨の危ない日に外出してはいけない」と教えられました。その後、雨量が急増して周囲の道路は川のようになり、ボートで救出される人が現れるほどの危険な状況になりました。知らない土地で行動する際の正確な情報収集がいかに重要か学びました。(工学研究科 神澤 拓さん)

CASE 2 銃撃事件(ケニア)

羽田空港到着後、ニュースから目を離すことが出来ませんでした。私はナイロビのあのショッピングセンターに帰国前日お土産の買い物に立ち寄りしました。比較的安心して買い物できる、お気に入りの場所でした。その2日後、70人以上の犠牲者がであの事件は起きました。もし…と考えると体が凍りつきます。私がたまたま難を逃れたのと同じく、犠牲になった方々は、たまたまあの日あの場所にいってしまっただけです。(国際協力研究科 田坂 尚子さん)

CASE 3 ストライキ(バングラデシュ)

バングラデシュでは2014年1月の総選挙に向けて、ストライキや暴動などが起こり、国が二分しており不安定な状況です。私が実践しているのは、「日本と常時繋がっておく」こと。スマートフォンを購入し、日本語でメールのやり取りが常時可能な状態にしています。バングラデシュのニュースもチェック可能です。自ら情報を集め、大使館や配属先の指示に従うことが一番の安全対策です。(国際協力研究科 酒寄 晃さん)

先輩からのアドバイス

1~2カ月という時間は、物見遊山には長いけれど、現地や人々を理解するには短い微妙な長さです。また、一旦事が起こると普段の装いから瞬間に綻びを露呈するのが途上国です。五感を目一杯使って体全体で感じることで、何でも訊ける気のおけない人を1人は見つけること、『悲観的に考えて、楽観的に行動する』こと、の3つを普段心がけています。それでも駄目なら「まっ、いいか…」という素早い切り替え、これも大事です。(G.ecbo事務局NS)

10年後の自分を探そう
世界と出会うインターンシップ



事務局編集後記

このたび初めてG.ecboニューズレターの編集に携わり、改めてG.ecboの魅力に気づきました。海外で自分が感じることで、自分にできること、それは予想ができないからこそ面白いと思います。この第13号発行のために、バックナンバーを遡って読みました。(G.ecbo HPで閲覧可能です。)修了生の十人十色の体験談(武勇伝)が掲載されていますので、海外インターンシップに興味がある人は、是非読んでみてください。2014年もたくさんの応募をお待ちしています!(事務局NJ)

ホームページもぜひご覧下さい。
<http://www.hiroshima-u.ac.jp/gecbo/index.html>

活動予定 2014年度前期

Spring 2014 G.ecbo Schedule

...

- ◆4月初旬/Early April: G.ecbo Day (募集説明会)/G.ecbo Application Guidance
- ◆4月22日/April 22: 応募締切/ Application Due
- ◆5月初旬/Early May: 選考及び発表/Selection & Notification
- ◆5月中旬/Mid May: 事前研修開始/Commencement of Pre-internship training



広島大学 教育・国際室
G.ecboプログラム事務局(学生プラザ3F)
電話 082(424)4551, 4581, 6950
Email: gecbo@hiroshima-u.ac.jp

